

核心部を見事突破し、完全遡行！

奥利根 小穂口沢本沢

浅井

【日 時】 2007年9月28日～30日

【メンバー】 小暮(L)、浅井、笹川

9月の最終週、三連休の翌週であるが、代休などで平日の金曜も休める三人が集まり、2泊3日で山行を組むことにした。場所については、私が集会で奥利根の小穂口沢を提案したところ、小暮さんと笹川さんも賛同してくれたので、その場で即決した。小穂口沢は私にとって高桑さんの本(『一期一会の溪』)を読んで以来、念願の沢の一つだった。

【9月28日】 (晴れのち小雨)

今回は初日の行程が短めなので、朝発で電車利用とした。早朝の新幹線で高崎まで行き、在来線に乗り換えて水上下車。駅前でタクシーを拾い、奥利根マリンの高柳さんが待つ矢木沢ダムへ。ダムに着くと既に出発準備を整えた高柳さんが待っていた。今日は平日なので、ダム周辺は閑散としている。さっそくボートに乗り、湖面に漕ぎ出す。ダムの水位は少なめのようなのだが、これは先の新潟中越沖地震で原発がストップしたため、その不足分をこのダムでも補っている影響らしい。満水時には小穂口沢出合からさらに少し上流までボートが入れるらしいが、今日は出合の少し手前で降ろされた。高柳さんに挨拶して、10:45、出発。バックウォーターの広い河原から歩き始める。気持ちのよい青空のもと、しばらくはゆったりした河原歩きが続く。まだまだ残暑がきびしく暑いぐらいの陽気だ。しかし予報によると今日は午後から天気は下り坂で、夜には寒冷前線が通過し、天気は急変するという。

12:50、オクサビ沢出合。ここからゴルジュや淵が出てきて沢らしくなる。所々水に浸かる箇所もあったが、順調に進んでいく。予報通り雲行きが怪しくなると、小雨が降ってきた。一時雨脚が強くなったので、途中の岩小屋で雨宿りをした。

きれいな釜を持つ小滝を越えると、15:30、南沢出合に着く。この先はゴルジュの中に2段7mの魚止め滝が現れる。高桑さんの本によると、高桑さんはこの滝の上段の釜を自らの墓所に定めているという。ここは通常通り右から巻く。有名沢だけあって巻きはよく踏まれていた。なおも進み、16:10、北沢出合。この先は5m前後の滝がいくつか出てきたが、問題なく越えていくと、急に沢は開け、今日の幕場予定地に着いた(16:30)。



【2段7m魚止め滝】

少しガスっていたが、正面には写真でお馴染みの、大滝の雄姿が望見でき、すばらしいロケーションだ。ただしツェルトを設営する頃から、再

び小雨が降り出してきたのが残念。焚き木も湿り気味だったが、時折吹く強風にもあおられて、最後には盛大な焚火が出来た。今回は焚火用のタープを持ってこなかったため、小雨に半身濡れながら焚火を囲んだが、盛大な火のおかげで、何とか快適に過ごせた。

【9月29日】（曇り時々晴れ）

夜中に少し強い雨が降ったが、起きた時は雨はあがっていた。前線が通過したせいかな昨日までの暑さとは一変して、少し肌寒いくらいだ。焚火で体を温めて、7:00、出発。河原が終わり、3m滝を越え、右岸からの支流を見送ると、釜を持った10m滝。これを右から巻くと次はスタレ状の30m滝。ここは左から快適に直登できた。その先のゴルジュの中の5m前後の滝をいくつか越えると、いよいよ大滝の下に到着(7:50)。下から見る大滝は傾斜が緩く、威圧感はない。出だしのルートを探りながら、しばし気持ちを整える。

出だしはまず左の右上するバンド沿いに灌木までフリーで登り、そこでアンザイレンしていよいよ登攀開始。1P目は小暮さんリード。バンドと灌木帯を辿りながら、左壁の草付状を巻き気味に登り、50mロープ一杯で1段目の滝上のテラスに着く。2P目は浅井リード。2段目20mスラブ滝を登るが、傾斜は緩く難しくはない。途中の左の灌木で支点を取り、50mロープ一杯で3段目半ばの左側のブッシュに到達。3P目は笹川さんリード。出だしが滑りやすくやや悪かったが、3段目の上段を越えて、4段目15mを左の急なリッジ沿いに登り、5段目の左側の灌木帯の中でピッチを切る。4段目から傾斜が立ってきたが、灌木帯が上まで続いているので助かった。4P



【大滝 2P目の登攀】

目は小暮さんリード。灌木帯から沢に下り、水流をまたいで6段目のトイ状の滝を右のリッジから登り、落ち口で再び水流をまたいで左の灌木でアンカーをとる。この大滝の中で最も変化に富んだピッチであり、小暮さんの的確なルート取りに感心させられた。これで無事大滝の登攀が終了(10:10)。今回は50mロープを目一杯延ばしたので、過去の記録よりも少ない計4ピッチ、2時間20分で登ることが出来た。大滝の上は劇的になだらかな流れに変わっていた。しばし充実感に浸りながら小休止。朝の曇り空から天気は徐々に回復し、いつの間にか日差しも出ている。その温かな日差しを浴びて心も和むが、この先には小穂口沢最難関と言われる20mスラブ滝が控えているのだ！

まもなく沢はS字状に屈曲したゴルジュとなり、3m滝を二つ越えると、その最難関の20mスラブ滝の下に着く(11:00)。過去の記録を見ると、直登を避けて少し戻った右側の脆そうなリッジを登っているものが多いが、よく見ると中間のテラスの下には残置スリングがあり、それを使ってテラスに上がればバンド沿いに中段まで進める。そして最後の急な草付を這い上げれば何とか行けそうだということで、小暮さんが空身で挑戦することにした。まず残置ハーケンにスリングを付け足して、それに足を掛けて、バンド状

のテラスに這い上げる。そこから左上するバンドを辿り、どん詰まりでハーケンを打つ。そこからは急な草付まじりの岩場をブッシュを掴みながらじわじわと登り、見事滝上に出た。そして固定ロープをセットして、懸垂でバンドまで戻り、全員のザックを荷揚げした。私が最後にフォローで登った感じでは、空身ならば何とか突破できるかなという難易度だが、やはりここをリードするにはかなりの自信と度胸がいるだろう！全員が無事登り終えた所でほっと一息(12:00)。

この先は再び穏やかな流れになり、目指す稜線も見えてきた。2m滝、3m滝を越え、さらに2段6mも快適に越えていく。4m滝を過ぎると沢はゴーロ状となり、何とか泊まれそうな感じである。この先の三俣まで行くと泊まれる場所はなさそうなので、まだ13時と時間は早いですが、この三俣の少し手前で、幕を張ることにした。でこぼこの地面の上に土とイタドリをたっぷり重ねると、何とか快適に寝れるスペースが出来た。焚き木も十分な量が集まり、その夜は雨にも降られず、盛大な焚火を囲んで楽しく過ごせた。夕方、明日目指す稜線が夕映えにくっきりと美しく染まって見えたのが印象的であった。

【9月30日】（曇りのち雨）

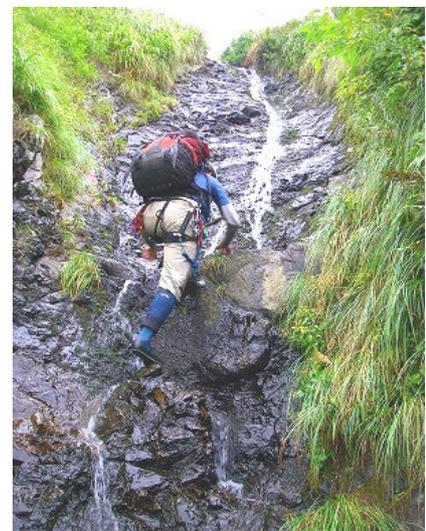
6:40、出発。今日は朝から曇り空で、午後から天気は再び崩れるようだ。まず幕場からも見えていた黒い岩の8m滝。これは登れないので、左から小さく巻いたが、草付が意外と悪く、途中からスパイクをつけた。その先の10m滝は左のリッジ沿いを快適に直登。そのすぐ先が三俣である(7:00)。ここから中俣に入る。

中俣に入ってからまだまだ滝場は続く。まず2段8mは右から登る。次の8m滝は左から登ったが、上部が悪く、先に右から登った小暮さんのお助けのお世話になった。次の5m滝はスタンスが乏しく、私が空身で登り、荷揚げした。次の8m滝を越えたあたりで、左の斜面に逃げることも考えられたが、時間もまだ十分にあることだし、行ける所までつめてみることにした。

次の2段8m滝を左から登ると、その先には10mのナメ滝。これは下部がつるつるで登れないので、スパイクをつけて右から巻いた。草付の斜面が急なので、慎重にトラバースして沢に戻ると、もう大きな滝はない。やがて水も涸れ、最後の急な涸れ滝を空身で登り、なおも沢型を忠実につめていくと、どん詰まりのカール状の地形で沢型は消えて



【20mスラブ滝を登る】



【源流部の滝を登る】

いた。最後は急な草付になるので、再びスパイクを履いて草のヤブを漕いでいくと、9:50、登山道へ出た。結果的に途中で逃げずに最後まで沢をつめたのは正解であった。あいにくこの頃から小雨が降ってきたので、雨具を着て、少し先の本谷山まで往復する。幸いまだ高曇りで、平ヶ岳を始めとする周囲の山々の展望が楽しめた。しだいに雨脚が強くなってきたので、すぐ下山にかかる。

小穂口ノ頭に向かう稜線上からは、少し南面の斜面の下にあるきれいな池塘が見えた。過去の記録を見ると2泊目はここに泊まるパーティも多いようだ。でもやはり我々のように沢の中で焚火付きで泊まった方が快適であろう。ふと目を先にやると、昨日我々が泊まった幕場の跡が意外と近くにくっきりと見下ろせたので思わず笑ってしまった…。



小穂口ノ頭からはよく整備された登山道をぐんぐん下っていく。途中、大きな滝をかける仙ノ滝沢がよく見えた。1296mの手前の鞍部で小休止。そして1296mへ向けて登りかけた時、ハチの飛ぶ音が聞こえたと思ったら、三番目にいた笹川さんにスズメバチの群れが襲いかかった。あわてて逃げたが、あいにく笹川さんは三箇所、刺されてしまった。その場で手当てをしたが、刺された足や手がみるみる腫れてきてかなり痛そうである。幸い何とか歩けそうなので、笹川さんには何とか頑張ってもらい、12:50、下の林道(内膳落合)に到着。ますます強くなる雨の中を全身ずぶ濡れになりながら最後の林道を歩いて、14:20、ゴールの十字峡に着いた。笹川さんは最後はびっこを引くような状態であつた。

十字峡小屋の中で着替えをしてタクシーを呼んでもらい、六日町駅前にある診療所に直行。そこで応急処置をしてもらったので一安心。後は駅前にある温泉(というか銭湯)で汗を流し、越後湯沢から新幹線に乗り換えて帰京した。

このように最後は雨とハチという不運が重なってしまったが、小穂口沢自体は快適に完全遡行でき、充実感で一杯である。難しい核心部を終始リードしてくれた小暮さん、最後はアクシデントに見舞われながらも最後まで歩き通した笹川さん、この先長く思い出に残るようなすばらしい山行、どうもありがとうございました。

【行程】

- 9/28 矢木沢ダム小穂口沢出合(10:45)～オクサビ沢出合(12:50)～南沢出合(15:30)～北沢出合(16:10)～大滝が望める河原 c1(16:30)
- 9/29 c1 (7:00)～大滝下(7:50)～大滝上(10:10)～20mスラブ滝下(11:00)～20mスラブ滝上(12:00)～三俣の少し手前のBPc2(13:00)
- 9/30 c2 (6:40)～三俣(7:00)～登山道(9:50)～内膳落合(12:50)～十字峡(14:20)

【地形図】 奥利根湖、兎岳